

4.移住者花嫁あっせん事業

コチア青年移民(単身)が増えた関係上、花嫁をあっせんする必要から移住者花嫁あっせん事業が実施された。

移住者花嫁あっせん事業の1例を挙げると、

1960年(昭和35年)農業労務者として米国に3年間派遣した第2回生23人が任期を終え1963年(昭和38年)7月に帰国した。この中で5人が海外移住を希望して県に相談に来た。県では移住協会とともに個別に相談を受け、内部でいろいろ協議した結果、単身雇用農(伯国コチア青年)移住より結婚適齢期なので結婚して若夫婦で移住することが望ましいということになった。早速本人たちと話し合っ、若夫婦の家族移住という移住の形態に5人がまとまった。



金子知事夫妻媒酌による岩清尾八幡宮での
合同結婚式

そこでまず、ブラジル、パラグアイ、ボリビア、アルゼンチンの各移住地の現状を分析し、家族労働力、携行資金などを考えあわせ最終的にアルゼンチン国アンデス移住地を選んだ。

アンデス移住地は、日本海外移住振興株式会社が1959年(昭和34年)に購入した総面積1,312ヘクタールの耕地で、主作物は果樹(ブドウ・桃)と野菜で、1家族10ヘクタールの分譲を予定して、1963年(昭和38年)に造成を完了した新しい移住地であった。

一方花嫁候補を出身町村を中心に親戚知人を通してさがした結果1人が内定した。残り4人の花嫁を神奈川県の花嫁移住希望者の訓練講習を行っている財団法人海外移住婦人ホームに依頼した。早速修了生の中から4人を推薦していただき神奈川県に見合いに行った。その後それぞれ付き合いを始め、結婚後アルゼンチン国移住、人生の大きな山を乗り越える意志をお互いが確認しあって翌1964年(昭和39年)1月、5組の婚約が整った。

2月29日大安吉日を選び、高松市の石清尾八幡宮の神前で、金子知事夫妻の媒酌によって、5組の合同結婚式を挙行政した。

- 新郎 佐々木重信 新婦 英子 三木町上高岡212
- 新郎 後藤 清 新婦 愛子 塩江町安原下1753-1

- 新郎 生駒 節 新婦 キヨ子 三木町井戸4830
- 新郎 馬場 確雄 新婦 智世 綾南町北251
- 新郎 堀上 茂雄 新婦 英子 高松市円座町608 -1



合同結婚式を終え、高松港棧橋での見送り

新郎新婦は新婚旅行もそこそこに渡航準備にかかった。親族一同と香川県拓殖係長佐藤一美氏の指揮で、職員全員が手分けして準備を整えた。そして、3月30日神戸港を出帆した「あめりか丸」に乗船して、アルゼンチンに移住した。

アンデス移住地に入植して4年目、金子知事宛に5家族より寄せ書きが届いた。その見出しに「入植4周年、第1回結婚記念日」と記されていた。職員一同一瞬考えこんで、結婚式の日付を思い出し、その年が閏年であったことに気付いた次第であった。